

研修報告書 No10

私は2012年1月の1ヶ月間、町立国保〇〇病院で地域医療の研修をさせて頂いた。〇〇病院は、高知県〇〇町という高知駅より山側に車で1時間半ほど走った愛媛県との県境に位置している。ベッド数30床で、急性期から慢性期までさまざまな疾患の患者を診ていると共に、保健福祉支援センターが併設していて、地域連携にも非常に力を入れている病院である。30床であるが、医師は5人（小児科含めると6人）おり、ベッド数当たりの医者の数としては多い方であろうと思った。しかしながら、高知県内での病院間の距離があるため、救急患者を救急車で運ぶにしても移動時間がかかることや、通院するにも山道が多く不便な点はあるかと感じた。

病院の近くには特別養護老人ホームや身体障害者施設が存在し連携しているため、退院後にこれらの施設に入所した患者の経過を見ることや治療を医師が率先して行っている。また、毎週1回ケアプラン会という医師・コメディカル達が保健福祉の方々と入院患者の方針を話し合う会が設けられており、多くの業種が一同に集まり、患者について病気、介護、家族、生活といった多方面から考えることで、今後どのような日々を過ごすことが患者や家族にとって幸せであるかを話し合う。都内の病院であれば地域連携が必要と判断された患者は地域連携部に依頼を出すことで医師としての仕事は終了し、それ以降患者がどのような人生を送るかを考える機会はなかなかないであろう。

また、訪問診療では患者と先生方のやりとりを見学させて頂き、そこには絶対的な信頼感が存在していると感じた。何度も訪問を繰り返し、患者の病気だけでなく、背景にある家族や生活感を目の当たりにしているからこそ、得られる信頼関係なのであるであろうと思った。さらに都内では経験できないであろう座談会や地域住民交流会にも参加させて頂き住民の方々と触れ合うことができた。座談会は地域住民と医師が集まり意見交換する場であり、病院をより良くしていこうという強い意志を病院側、そして地域住民側の双方に感じる事ができた。

地域連携を通して病気だけでなく、患者の人生を背負い、その上で得られた信頼関係を育てて医療に従事する。それは病気を患っていない住民との交流にまで広がり、まさに医師が診ているものはこの地域全体であり、そこに住む人々であると強く感じさせられた。私にとってそれは他では感じる事の出来ないとても有意義な経験になったと思う。